

# 大井町立相和小学校

研究テーマ：児童一人一人が自ら問いを見出し、学び合いをとおして深める授業

## 1 実践の目的

今年度の研究は、2年計画の2年目として取り組んだ。昨年度は「問い」、今年度は「深い学び」に視点をあてた研究を推進した。

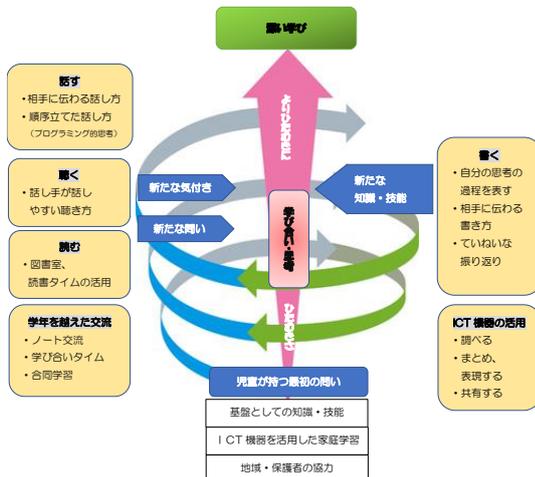
改めて「深い学び」とは、何と捉えるかを学校全体で共有し、昨年度までの成果と年度初めの研究会をもとに、「深い学び」の姿や場面について、次のような仮説を立てた。

学び合いや振り返りの中で、

子どもたちの「考えが変容する」  
子どもたちが「考えをつなぎ合わせる」  
子どもたちが「多面的に物事を捉え考える」  
子どもたちに「変化や深まりが見られる」

こうした子どもの姿が大事であると考えた。子どもたちの「深い学び」につなげるために、教師は環境を整え、児童の実態を踏まえた授業づくりや交流活動に取り組むこととした。また、昨年度の研究成果を生かし「異学年で学び合う機会をひろげる」「アウトプットにつなげる」ことを改めて共有し、組織的な実践につなげた。

### ○学びの構想図



## 2 実践の内容

### (1) 授業研究

研究の根幹は、日々の「授業」である。研究会をとおして、「学びの構想図」「学び合い、深めていることがわかる具体的な児童の姿」「ひたむきさ・粘り強い取組・自らの学習を調整しようとする姿勢や場面」について全体で共通理解した。

授業研究では、授業後に「インタビュータイム」を設定することで、本時について担任以外の教師から児童に対して質問をし、その様子の動画を研究協議で共有した。「一番考えたことはなんですか」「2学年で一緒に考えましたが、どうでしたか」等、子どもたちが深く学んでいたかどうかについて迫れるよう、事前に質問内容を検討・計画してから取り組んだ。



## (2) 異学年交流

複数学年や、相和っ子班（異学年縦割り班）によるノート交流を行い、家庭学習ノート（6月）、道徳ノート（10月）、算数ノート（1月）について、お互いに紹介し合った。ノート5箇条（①日付・時間②めあて・ふりかえり③ていねい④学習内容⑤工夫し、楽しむ）を確認したり、学習の中でノートづくりを意識したりすることができた。

また、相和っ子班では、家庭学習（9月）、算数（11月）、国語「書くこと」（1月）について学び合いタイムに取り組んだ。友達と教え合ったり、1～6年生の学習を見通したり、振り返ったりする時間になった。

さらに、算数、特別の教科 道徳、音楽、家庭科、体育の教科では、異学年合同学習を行った。初めての学びを純粋に楽しむ姿や、上級生として説明する姿が見られた。また、一人一人の多様な考えを交流し合うこともできた。

## (3) 学びのアンケート

7月と12月には児童と職員を対象とした「相和っ子 学びのアンケート」を実施した。今年度のテーマ：深い学びについて、「どのような場面で、学びが深まったと感じますか」の質問項目では、次のような回答が得られた。

みんなで話し合って、解決する時  
分からないときに、教え合う時  
ノートを見合う中で、新しい考えが生まれた時  
授業のまとめに向かっていく時  
成功したと感じた時  
前までできなかったことができるようになった時  
(以上児童より)

既習問題を想起し、問題解決しようとしている姿  
友達と考えを共有し、良さに気づき、活用している姿  
新しい考えについて、比較したりつなげたりする姿  
子ども同士で話し合い、考えがまとまり、解決する姿  
授業の終わりに、子供の授業への態度が変容した姿  
(以上職員より)

## 3 実践の成果

### 成果

「深い学び」に向かって、授業実践を積み重ねることで、1時間や単元をとおして子どもたちの思考の深まりが見られ、よりよい考えに変化していく姿が見られた。既習事項や友だちの考えとつなぎ合わせ、新たな考えを生み出す場面もあった。

異学年合同学習に継続して取り組むことで、学校目標「学び合い 高め合う なかまづくり」に迫ることができた。異学年が合同で取り組むことによって、学び方を学んだり、一人一人の違いや価値観を共有し合ったりすることができた。

### 課題

子どもたちの「深い学び」につなげるための教師の関わりについて授業改善に努めていく必要がある。道徳では、「エージェンシー」「子供に対する教師の関わりポジション」「発問の立ち位置・4区分」というキーワードを大切に、さらに研究を進めていく。

また、異学年合同学習に取り組む子どもたちに対して、共通する「問い」を設定する難しさを感じた。学年相互の連携を図るとともに、目指すべき各学年の姿をイメージ・共有しながら、系統的・発展的な指導ができるよう研究を推進していく。

## 4 今後の展開

学校教育目標達成に向け、校内研究をとおして「自ら考える力」「学び合う」ことを大切にしていきたい。また、学校教育目標を達成することで、学校教育目標の先にある「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をイメージしながら研究を進めていきたい。